

東区 ABOUT HIGASHIKU の紹介



東区ってどんなところ？

約26万人が暮らし、札幌市内10区中2番目の人口を擁する東区。区の南はJR函館本線で中央区と接し、西および北は創成川、旧篠路村境界で北区と、東は豊平川と石狩川を挟んで白石区、江別市および当別町と接しています。区域は東西9.3キロメートル、南北11.0キロメートルに広がっており、面積は56.97平方キロメートル。10区中5番目の広さです。

東区は、慶応2(1866)年に大友亀太郎おともかめ たろうが幕府の命を受け、現在の北13条東16丁目付近で御手作場の造成に着手し、150年を越える歴史を刻んできました。亀太郎は御手作場の造成のほか、創成川の前身となった大友堀の開削を成し遂げており、これらの功績は以後の村づくりの礎となったため、開拓の祖ともいわれています。

明治に入ると、村には本州各県から移民団が相次いで入植し、村落が次々と誕生しました。当時この地は、クマやシカが出没する原生林が至るところに繁茂し、ヤチと呼ばれた湿地帯が広がるなどして、開拓には大変な労苦を伴ったということです。

しかし、多くの先人たちのたゆまぬ努力

のおかげで豊かな田畑が徐々に広がり、やがて、農業が村の主要産業となります。開拓当初は雑穀が中心でしたが、リンゴ、ブドウなどの果樹栽培を経て、全国的に名声を得たタマネギの生産へとその主役はかわっていきました。

札幌市に隣接する純農村として歩んできた札幌村は、昭和30(1955)年に琴似町、篠路村とともに札幌市に合併されます。以来、急激に都市化が進みました。昭和47(1972)年に政令指定都市移行により「東区」が誕生。

亀太郎をはじめ多くの人々が鍬をふるった大地には住宅が建ち並び、近代的な住宅街へと変ぼうしていきました。

昭和63(1988)年地下鉄東豊線が開通し、その後、サッポロさとらんどやモエレ沼公園といった大型施設が相次いで誕生。平成30(2018)年11月17日にはJR苗穂駅橋上駅舎と自由通路が開業し、現在も発展を続けている東区。令和4(2022)年4月には区制50周年を迎えました。これからも東区は、皆さんとともに形づくられていきます。

東区マスコットキャラクター タッピー

平成4(1992)年12月3日、区制20周年を記念し、「東区を象徴するような、みんなに愛され親しまれるマスコットキャラクター」として誕生した「タッピー」。東区に住んでいるタマネギの妖精で、つぶらな瞳に二頭身が特徴です。

区の行事をはじめ、地域のまつりや学校行事などでも活躍し、特に子どもたちには大人気。いつでもどこでも、タッピーの周りには子どもたちの輪ができます。

タッピーの誕生日12月3日は、公募によるデザインが決定した日です。その後あらためて名前が公募され、平成5(1993)年3月2日に「タッピー」という名前がつけられました。東区名産の「たまねぎ」と「ハッピー」を組み合わせたこの名前は、今ではすっかり区民の皆さんに浸透しています。



東区シンボルマーク

区制5周年を記念し、昭和52(1977)年7月に制定されました。「緑」の中の「東」の文字は、豊かな自然に囲まれた東区を意味しています。また、周囲の6つの円は北国の雪の結晶を表すと同時に、東区以外の6区(当時の札幌には7つの区がありました)とのつながりを深めながら未来に力強く発展することを意味しています。



東区ふれあいマーク

東区(higashi-ku)と心(heart)のイニシャル「h」をもとにデザイン。優しく力強い青色の渦巻きは、区の特産物「タマネギ」と快適環境のシンボルとしての「かたつむり」を示すと同時に、モエレ沼、伏籠川といった水辺環境と区民の心のふれあいの環を表現しています。そして、周囲の赤い点は東区の明るい未来と、降りそそぐ陽光を表現。平成9(1997)11月に区制25周年を記念し、公募で寄せられたデザインを基に制定されました。

